



北京理工大学 日本語学科学生
私にとって友愛とは

2017年版

一般財団法人 友愛 編

北京理工大学「友愛講演会」奨学金対象感想文
私にとって友愛とは 2017年版

∞∞∞ 目次 ∞∞∞

感想文	第一位	吳 旻	1
	第二位	宋 姣	3
	第二位	崔所為	5
	第三位	毛仁言	7
	第三位	張 莹	9
	第三位	班宇識	1 1
	入 選	周小芸	1 3
	入 選	陳穎研	1 4
	入 選	朱睿超	1 6
	入 選	楊 滿	1 8
	入 選	吳清儀	2 0
	入 選	孫鳴鶴	2 1
	入 選	王竹君	2 3
	入 選	李昊謙	2 4
	入 選	李明悦	2 6
	入 選	王丹通	2 7

リスク社会の中での「友愛」

呉 菀（4年）



北京の寒い冬のある日、昨年につき鳩山由紀夫先生と会い、友愛について理解を深める機会を得たことは非常に喜ばしいことだった。講演の中で、鳩山先生は個人から国際情勢まで、さまざまな例を挙げ、友愛を分かりやすく説明した。その中で一番印象に残ったのが、鳩山先生が「友愛とは自立と共生です」と述べたことだ。この一言に触発され、私は友愛についていろいろ考えてみた。

私の以前の理解では、友愛とはあまり知らない者同士の間の愛のことであった。互いの人格を尊重し、困ったとき互いに助け合うことだ。この理解では、友愛はどう考えても自立とは関係がない。しかし、よく考えてみれば、自立は友愛にとって非常に大事だ。自立できない人は他人を助けることなどできない。鳩山先生の言った通り、自己の尊厳(自立)を高め、他者を尊重(共生)するのが友愛だ。

鳩山先生の講演を聞きながら、私はウルリッヒ・ベックの「リスク社会」(1998)という言葉思い出した。リスク社会とは、近代化と産業化に伴って副産物として生まれたリスクが、例えばチェルノブイリや福島原子力発電所の事故のように、常に生産、再生産される社会のことだ。このリスクは、環境破壊のような環境と人間の関係に関わるものと、核家族内の矛盾や個人化のように社会と人間の関係に関わるものに分類される。このような複雑化したリスクが生み出される現代社会において、鳩山先生の説く友愛は一層重要になってくるのではないかと私は思う。「友愛とは自立と共生です」と先

生は言った。この自立と共生という二つの要素がリスク社会にとって、重要性を増していると思う。

自立という言葉を、私は高校時代によく聞いた。担任の先生はいつも「自立できる人になりなさい」と言った。当時の私は自立を「自分のことは自分でやる」と理解した。つまり「他人に迷惑をかけない」ということだ。しかし、自立はそう簡単ではないということが次第に分かってきた。自分のことを自分でやるだけでなく、自分を尊重することも重要だ。自分を尊重して初めて他人を尊重することもできる。しかし、自立意識の度が過ぎると、自己中心になりかねない。女性の社会進出により女性の自立が進み、家庭内の男女分業を前提とした工業化の産物、核家族が機能不全になっている現代のリスク社会では、職場では女性は男性のライバルになり、家庭では誰が家事をするのか、といった問題が生じている。このような問題に直面したとき、「自立」と同時に「共生」、すなわち相手を尊重し思いやることが非常に大切になってくるのではないだろうか。

また、放射能汚染や大気汚染などの例が示すように、近年の環境問題は目には見えないリスクが国境を越えて地球規模で我々人類を、自然環境を脅かしている。このような危機に立ち向かうためには、鳩山先生が説いたように一国家として問題に取り組むだけでなく、他国とも協力して、一丸となって問題に取り組み、自国の国民の生存権を尊重すると同時に、他国の国民の生存権をも尊重する、まさに共生の姿勢が問われていると思う。

今我々が直面しているリスク社会で、自立と共生、すなわち鳩山先生が説く友愛の精神は非常に重要だ。友愛の力で、人類をリスク社会から救うことができるのではないかと私は思う。

私にとって友愛とは

宋 姣（3年）



中国の思想家墨子の兼愛という教えに馴染みのある私たち中国人にとって、友愛という言葉は、どことなく親近感のある言葉なのではないでしょうか。実際、私は友愛という言葉聞いて、墨子の万人に対する愛のことを連想しました。ですが、友愛に対する定義は時代や地域によって違うはずですし、人によってもそれぞれ異なるはずです。鳩山由紀夫先生は講演で、墨子に触れながら、ご自身の考える友愛とは自立と共生だと説きました。その考えを聞いて、私も鳩山先生の友愛の精神に共感し、自分の友愛に対する考え方を新たにしました。

鳩山先生によると、友愛とはお互いがお互いを尊重し、理解し、助け合うということで、更にそこには、自立と共生という概念が伴います。一個人でも、国家でも、鳩山先生が説く友愛という概念を実践することができます。私たちはこの友愛の概念を理解し、日常生活において、身近なところから実践していくべきだと思います。

例えば、鳩山先生が言及されていた植林活動です。植林活動は地道で地味な活動とはいえ、友愛の概念 - 自然と人類に対する慈しみ - を具現化した活動だと思います。中国経済は急速に発展する一方で、私たちの生活環境は逆に悪くなりました。利益だけを重視し、自然にダメージを与えることを考慮してこなかった結果です。ですが、ひたすら利益を追求し続けるなら、やがて自然環境のみならず人類にも悪影響を及ぼすようになります。中国の大気汚染問題がそのいい例でしょう。友愛の精神がないと、私たちは自然のみならず、

自分で自分の首を絞めることになり、人類自身を滅ぼしかねません。ですから、私たち人間は自分の行動に責任を持ち、自然を慈しみ、自然と共存し、自然を保護すべきです。そうすることによって、私たち人間は自然から恩恵を受け、子々孫々に渡って自然と共存していくことができます。植林活動は、自然を保護することを通じて、自然と共生し、友愛の精神を具体化しています。友愛協会が行うような大規模な植林活動はできなくても、芝生の上を歩かない、ゴミを投げ捨てない、ゴミを分別する、リサイクル活動をする、環境に優しいエコ商品を買うなど、日常生活を通じて、私たちも自然と共存することができるのではないのでしょうか。

また、鳩山先生が説く友愛は、個人のことであり同時に、国家のことであります。国と国の間に友愛があるからこそ、国と国が協力でき、仲間としてお互いに協力し、発展することができます。

私は今はまだ一大学生にすぎないのですが、今後、中日関係が一層和らぎ、友好的に発展していくことを心から願っています。日本と中国が将来、鳩山先生の説く自立と共存の関係を築けるように、日本語専攻の学生として、大好きな日本の文化、風俗、生活、社会、歴史などをもっと深く学び理解するために、今後も一生懸命日本語を勉強したいと思います。また、日本の人々に中国のことをもっと良く理解してもらい、お互いがわかり合えるように、中国のこともしっかり学び、日本の人々に伝えていけるようになりたいと思います。自分が中国人として自立したアイデンティティを確立し、日本の人々と友好的に共存していきたいと思うからです。

私は日本語を通して日中友好のかけ橋になりたいと思います。私自身の日々の行動や勉強を通じて、鳩山先生の説く友愛の精神を、日本人にも中国人にも伝えていきたいと思います。

私にとって友愛とは

崔 所為（2年）



子供の頃、家ではよく両親に「友達と仲良く付き合いなさい」と言われ、学校では国語の先生に何度も友好の美しさを教わった。先日の鳩山由紀夫先生の講演を聞く前まで、私は友愛とは仲の良さや友好、つまり周りの人を心から大切に思って、身近な人が困難に陥った時、できるだけ手を差し伸べて、助けようとする事だと思っていた。

た。

しかし鳩山先生から「友愛とは自立と共生だ」とお聞きして、私は友愛の意味を考え直してみることにした。鳩山先生は「自立とは自己の自由と尊厳の尊重することで、共生とは他者の自由と尊厳をも尊重する精神だ」と説明なさった。つまり、友愛は自分の尊厳を高めて、自分を愛することと同等に、他人の自分との違いを認め、それを尊重することだったのだ。その上でお互い助け合い、仲良く付き合うことだ。「友愛」というのは、親しい人や友達に限られるのではなく、年齢・性別・国籍のいかんを問わず、あらゆる人間がお互いに尊重して、お互いに助けることだと思う。人と人との関係だけでなく、国と国との間も同様だ。世界の経済大国として、中国は毎年アジア諸国の発展のために巨額の援助資金を提供している。そして、世界の共に発展できるようにと提唱した経済圏構想では、異なる民族・異なる文化・異なる発展水準の国々と協力して貧困か

ら脱却させることを目標にしている。自国だけが強くなるのではなく、周辺国と共に世界の発展を促すことは、鳩山先生のおっしゃる「自立と共生」であろう。

友愛は人の関係のみならず、自然にまで広げる必要もある。近年の中国は経済発展を優先したため、大量の木を濫伐し、汚水や廃棄物や有毒ガスを排出してしまった。そして、環境問題は深刻になっている。私が幼児に見た蝶が、最近では目にできなくなって悲しい。蝶のいた林までもが、マンションになってしまった。人間の手により、きれいな山・川が失われ、色々な生物が絶滅しつつある。この問題に直面し、人は人に対するように、自然に対する友愛を持つべきだと思う。植林活動や野生動物の保護を通じ、「自然との共生」を実現するのが友愛の実践ではないか。

より多くの友愛が溢れる明日を迎えられるかどうかは、今日の我々若者がどのように努力するか否かによると思う。私はこれから、人間への友愛はもとより、自然への友愛を忘れずに成長していきたい。

友愛と尊重

毛 仁言（2年）



先日、鳩山由紀夫先生の友愛についての講演を聞いた。初めて、自分の身近な面からだけでなく世界の立場に立って「友愛」という言葉の意味を多角的に理解でき、深く感動した。先生の「友愛は両者の信頼関係によって成り立つ愛で、言い換えればお互いの人格を尊重すること」という定義に強く共感したためだ。

なぜこんなにも鳩山先生の説く友愛に共感したのか考えてみた。それは、今年の夏に制定された「中国視聴ウェブ番組審査規則」によって、同性愛に関する番組が放送禁止になったことに関係している。

多くの人々は、なぜ中国はすでに精神病の一つであるとはみなされなくなった同性愛を禁じるのかと反対した。友愛の観点に立てば、同性愛番組を禁じる規則はLGBTの人々の人格を尊重していないことになる。一方、この規則に反対する声はLGBTの人々を尊重し、異性愛者にも同性愛者にも平等に愛や権利があると訴えている。この規則制定とほぼ同時期に、ドイツは同性カップルが結婚できるようになり、台湾も同性愛を合法化し、日本でも同性カップルへの住宅ローン政策ができたと聞いている。中国は他国への資金や技術援助などを通じて世界経済の発展に貢献している。確かにこれは友愛の一つの形である。しかし、国内のマイノリティグループへの理解と尊重という形の友愛の精神を持つことも不可欠だと思う。

また、鳩山先生が言うように、組織と組織、国と国の間にも友愛があるべきだ。国家間に友愛というある種の「愛情」があるからこそ、世界の平和が保たれると思う。しかし、自国の利益だけを考え、他国のことに配慮しない国もある。例えば、最近、アメリカのトランプ大統領は一方的にエルサレムをイスラエルの首都だと正式に認定した。これは、イスラエルとパレスチナ間の政治や外交問題への干渉であり、相手を尊重する友愛ではない。友愛のない国家間の関係が、果たして平和を生み出すことができるのか疑問に思う。

私たちはまだ大学生だから、国際関係は自分たちとは関係のないことだと考える人がいるかもしれない。しかし、視野を広げて友愛の観点から世界情勢を考えることも必要だと思う。同時に、日々の生活を通じて身近なところから友愛を実践していくことも大切だ。

鳩山先生の講演を聞いて、友愛の最も大切な精神は相互尊重という悟りであるをつくづく思った。それは、子供のころから身につけていくべき素養の一つなのではないかと思う。

私にとって友愛とは

張 莹（3年）



友愛とは、一体どういう意味なのでしょう
うか？ 先日、鳩山由紀夫元首相の「友愛・
平和」についての講演を聞いて、感銘をう
けました。それをきっかけにして、友愛に
ついて自分でもいろいろ考えました。する
と、今まで気づかなかったのですが、実は、
友愛は以前から私にとって、大切な意味が
あるということがわかりました。

子供の頃、私にとっての友愛とは、友情でした。友達はお互いに
助け合い、尊重しあいます。それは友愛の形の一つだと思います。

私は大都市上海で生まれ育ちました。一人っ子なので兄弟もいな
いし、両親は仕事で忙しくて、いつも一人で寂しかったです。そん
な私の心を癒してくれたのが友達でした。平日は一緒に遊んだり、
おしゃべりしたり、学校に通ったり、友達はいつも私のそばにいま
した。毎日、放課後に、「また明日」とお互いに声をかけあったので
すが、学校がある平日は必ず会えるとわかっているのに、翌日にま
た会えたときの嬉しさは格別でした。家に帰っても、休みの日でも、
友達とは永遠に一緒にいられるのではないかと思いました。友達の
優しさも笑顔も昂のようにぴかぴか輝いて、寂しい私の支えとなっ
て、心を暖かくしてくれました。喧嘩も時々しましたが、いつもす
ぐ仲直りしました。いつでもそばにいて、お互いに助け合う私と友
達の関係は、当時友愛という言葉こそ知らなかったのですが、まさ
に友愛の気持ちとして幼い私の心に深く刻まれました。

18 歳で成人し、大学生になったあと、私の友愛に対する理解は少

し変りました。今の私にとって友愛とは、人間にとって必要な精神であり、一致団結することです。その団結は、相互理解、相互尊重、お互いに助け合うという思想をもとに生まれたものです。

人と人の間に、友愛精神はよく見られます。「友愛は友人の間に存在するだけではなく、見知らぬ人々の間にも友愛は存在すべきだ」と思います。アリストテレスによると、「人間は社会的な生物なのだ」そうです。換言すれば、人間は一人で生きられないのです。中国には「団結は力なり」というそれを表すことわざがあります。一人の力は弱いけれど、集団になれば強くなる、という意味です。ですから、人々の間に友愛が存在してきたからこそ、人間は今日まで生きているのです。友愛が存在しない世界は、まさに月のない夜、世の中は暗闇になるでしょう。同じような考えは、古代中国の孔子にも見られます。孔子も「仁」、「愛」という思想を使って友愛の重要性を大いに強調しました。今、この友愛の思想は世界に認められ、益々重視されています。

私も常にこの「友愛の原則」を心に記し、この考えを実践しています。大学 1 年生になってから、学校の主催するボランティアに参加して恵まれない地域の子供たちに授業をしました。私はこの友愛の思想を子供たちに教えてあげたいと思うのです。個人の力は小さいけれど、子供たちの成長に役に立てれば、と思い、大都市育ちの私には、最初は少し辛い環境でしたが、頑張っって子供たちと生活を共にし、全力で授業をしました。

今、私には小さな夢があります。「国々の間に友愛の原則を広めて、一緒に世界の平和を守る」ということです。世界の平和を心から祈っていますので、その実現のために、私は友愛の理念を堅持し、より美しい世界のために頑張りたいと思います。

私にとっての友愛とは

班 宇識（4年）



友愛とは何か。一見、膨大な意味を含む語だと思えるが、今年の夏休みに参加した交流活動での日本人の大学生との交流から、友愛について私なりに考えた。

それは日中交流基金と中日学生連盟の共催で行われた交流活動だった。日本で大手商社などの企業を訪ね、日本人の学生と一緒にディスカッションし、課題に取り組んだ。中国と日本で連携して番組を作る提案をしたり、文明堂を見学して中国と日本のお菓子文化を比較考察したり、以前ならば考えたこともないようなことに、精一杯取り組んでいた。その傍ら、一緒に料理を作ったり、夜遅くまで懇親会をしたりした。私たちが帰国する日、皆涙くみ、「また会おう」と言って名残を惜しんだ。

日本人大学生の何人かは「班ちゃんが日本語が話せるのに、私は中国語が全然話せない」と悔しそうに言い、夏休みが終わってから中国語の勉強を始めてくれた。

印象深かったのは宮城県から来たためぐちゃんの、活動のホームページに寄せたメッセージだ。

中国は近いようでもごく遠い国で、そこに住む中国人とは一生理解しあえないと思っていた。優しくて温かくて素直な人たちと関わりを持たずに暮らしてきた20年がもったいなく感じるくらい素敵な人たちに会ってよかった。

これは、活動参加者全員の思いを代表していると思う。中国と日本は距離近い。共にご飯の時に箸を使う「お箸の国」だ。「カンパイ！」の発音も中国語とよく似ている。なのになぜ「近いようですごく遠く」と感じるのか。今回のような大学生間の交流ばかりでなく、他分野での交流も一層進めばいいと思う。やはり相互理解したい気持ちを、両国の若者が持つことが大切だ。それは相互尊重・相互扶助につながる。必ずめぐちゃんのように中国人を理解してくれる日本人も出てくるだろう。公式な政府間関係が芳しくない「近くて遠い両国」の現在、それはたとえば雨が降り続けているような時期だ。そんな時期に友だちになれた私たちは「雨中の友」、きっとこれからも真の友であり続ける。

中国の若者によく知られている「心有多大，你的世界就有多大」という言葉がある。自分の心の大きさをもって、自分の世界の広さを変えていくということだ。私は異文化についての理解と好奇心を「呼び出す」不思議なものが「友愛」だと思っている。友愛によって、異文化に関する見聞を広め、私たちの文化との間に永く堅固である橋を作りたい。

私にとって友愛とは

周 小芸（4年）

今年で鳩山由紀夫先生講演を聞き、友愛協会の方々とお会いするのが3度目となった。興味深いことに、私自身の経験の増加に伴って、「友愛」に対する理解も変わってきた。今の私が友愛とは何かと聞かれたら、必ず友愛とは尊敬と包容心だと答える。

世界には一人として自分と同じ人はいない。人間と人間の間にはいろいろな差がある。特に、他国の人のイデオロギーや生活習慣には多くの違う点がある。このような状況で、どうすれば他国の人々と友達になれるのだろうか？ 私は、まずは他人を尊重する精神をマスターしなければならないと思う。

去年の日本APAホテルについてニュースを例として考えてみたい。APAホテルの社長は公の席で南京大虐殺を否定し、ホテルの客室に反中の本を置いた。中国人はこの行為から右翼の悪意を感じ、在日中国人はAPAホテルに反対するデモを行った。デモ活動では右翼の妨害にあったが、多くの優しい日本人のサポートも得た。ある留学生はネット上に日本人がデモを手伝っている写真を掲載した。私はその写真を偶然ネットで見て、非常に感動した。

そこで私が思ったのは、個人を尊重したら、その人の国も尊重しなければならないということだ。私はデモ活動に協力した日本人を尊重すると同時に、日本も尊重すべきなのだ。そのためには、中日両国の歴史に直面して、しっかり交流する必要があるだろう。それができたとき、過去の恨みも消えるのではないだろうか。中国には「傷の痛みの教訓が根本にないと何の意義もない。人は犠牲を払わずにはいかなる収穫を得ることができない」という考えがある。戦争は人類の悲劇で、友愛の対義語だ。戦争は忘れるべきではない。

中日両国の国民が友愛の精神を持って戦争の教訓を心に刻んだら、コンセンサスを達成する可能性があり、互いに尊重しあえるのではないかと思う。

「完璧などはありません。この世界は不完全だ。だから、美しい」とは日本のアニメ「鋼の錬金術師」の台詞のひとつだ。相手を尊重して尊敬するだけでなく、包容心、すなわち寛容であることも重要だ。寛容は尊敬の延長だとも言える。人間にとって、他人との付き合いは必要である。他人と付き合うとき、その人の習慣と文化などを理解しなければならない。包容心と平常心を抱いて、世界の多様性を理解する必要がある。完璧な人はいない。他人の欠点を包容すれば、友好的な付き合いを促成することができる。友愛の精神を持てば、たとえお互いの国に歴史的にわだかまりがあっても、積極的に他人と友達になり、相手に「愛」を伝えることができる。

「誰にも光と影がある。大事なのはどちらを選ぶかだ。人はそこで決まる。」これは「ハリー・ポッター」の中で私が一番好きな台詞だ。光を選んだ人間には通じる思想がある。彼らは他人を尊敬して包容することができる。友愛という精神も、このような人々の手で伝え続けてゆくべきものだと思う。

私の友愛体験

陳 穎妍（3年）

去年の夏休みに、友達と一緒に日本へ旅行に行った。この旅は、忘れられない、すばらしい思い出となった。今回、鳩山由紀夫先生の講演を拝聴して、なぜこの旅行がこんなにも私の心に深く焼きついているのか、その理由がわかった。この日本への旅行は私の友愛

体験だったからだ。

大阪に行った時、深夜に友達は急に熱が出た。四十一度の高熱だった。彼女はとても辛そうで、早急に何とかしなければならなかった。急いでタクシーを拾い、私は拙い日本語で必死になってタクシーのおじさんに友達の状況を説明し、病院の救急外来に連れていってくれとお願いした。しかし、中国では二十四時間開いている病院は珍しくないのに、日本では少ないらしく、おじさんは何回も電話を掛けてくれたのに、なかなか病院を探せなかった。ところが、おじさんは嫌な顔一つしなかった。それどころか、笑顔で私と友達を励ましてくれた。病院が見つからないのは不安だったが、おじさんの優しさで私たちはなぜか安心することができた。そして、ありがたいことに、ついに病院が見つかった。病院に到着した後、おじさんは車から下りて、看護師に友達の状況を詳しく説明してくれた。「お嬢ちゃん、大丈夫。もう心配いらないよ」と言って、おじさんと彼の車は夜の闇に消えていった。その後、病院で医師の診察を受け、処方された薬を飲んで、友達の熱は次第に下がっていた。その時、私たちはおじさんに心から「ありがとう」と言いたかったが、おじさんの名前もタクシー会社もわからなかった。残念に思ったが、どうしようもなかった。その後、旅行を終えて中国に帰国したとき、私たちにとって、おじさんが私たちの心に残した優しさの記憶が一番すばらしい旅行の思い出となっていた。

私にとって、鳩山先生の講演の中で一番印象深いのは「友愛とは親子・恋人同士の愛とは別のものです。見も知らない者同士の愛です」というセンテンスだ。今回、先生の奥様が怪我をした時、中国側の関係者が迅速かつ適切な対応で、奥様に対応したことも分かった。先生はこれも最近自分が感じた友愛の心だと言った。その時、

私はタクシーのおじさんのことを思い出して、私の経験も友愛だということがわかった。友愛の精神には国籍や言葉の違いは障害にならない。私たちは中国人であるが、日本人のおじさんは私たちを熱心に助けてくれた。中国人であろうと日本人であろうと、友愛はすべての人間の心に存在するお互いを愛することであるとわかった。友愛は相手の立場から物事を考え、心から相手を信頼して尊重することである。また、年齢や性別に関わらず、友愛はお互いの心を繋ぐ役割もある。更に、人間関係だけでなく、友愛を通じて国と国、人間と自然の友好的な関係も確立できると思う。

鳩山先生の講演は、友愛の力のすばらしさを思い出させてくれた。自分が日本で経験したのは、まさに友愛だった。大阪のタクシーの運転手のおじさんが私たちに示してくれたように、友愛の強い力を深く感じて、今度は私が他人にこの友愛の精神を伝えたいと思う。私たち人間がいつも友愛の気持ちを持っていれば、私たちの住む世界はもっと美しくなる違いがないと固く信じている。

私にとって友愛とは

朱 睿超（3年）

友愛という言葉を一見すると、「よい関係を守る」という簡単な意味があります。でも私たちの成長に伴って、友愛を様々な視点から見ることができます。人と人の間の友愛や、国と国の関係、あるいは人間と自然の共存など、友愛は我々の生活と密接な関係があると思います。

子供の頃、私にとって友愛とは、友達とのいい関係のことでした。玩具を一緒に使って遊んでいたのは、お互いの友愛の証だと思いま

した。また、成人になったあとは、友達と信頼関係を築きたいなら、お互いの人格と趣味を尊重しなければならないと知りました。鳩山由紀夫先生は講演で、「友愛とは自己の自由と尊厳の尊重と同時に、他者の自由と尊厳をも尊重する精神」と言いました。人間は自分の特性があるので、完全に同じ考えを持っている人がいません。他人から尊重と理解を得たいなら、必ず相手の立場を尊重し理解しなければなりません。そうでなければ、友愛は得られないでしょう。友愛は鳩山先生が言うように「お互いに共通点を喜び合い、相違点を認め合い、理解し合い、違うからこそ助け合う精神」だと思います。

国と国の友愛も同様です。平和を守るだけでなく、ここでの友愛は人類全体の発展も含んでいます。政府も人々も責任があると思います。近年中国では、習近平主席が一帶一路構想を提唱しています。習主席は講演で「人類運命共同体の発展を目指す。それには相互尊重。公平、正義、協力が不可欠である」と言いました。一帶一路構想と実施は中国の政府が友愛のために行う貢献の一つです。人々もそう思います。日本語専攻の学生の私から見れば、現在の中日関係はあまり良くないにもかかわらず、たくさんの人々が努力して、両国の関係に良い影響を与えています。大学一年生の時、私は「中日学生会議」という活動に参加しました。中国と日本からの学生たちが、経済、文化、歴史、環境保護などのグループに分かれて、半月間、討論と生活を通じてお互いに深い理解を促す活動でした。中国ではこのような活動が少なからずあり、これは人々が国と国の関係のために、努力をしているという友愛の表現ではないでしょうか。

鳩山先生は講演で、「人が人に対する友愛があるように、自然に対する友愛もある」と言いました。私もそう思います。人類の発展に伴って、環境破壊も続いています。地球温暖化は世界問題になりま

した。近年の中国では大気汚染が深刻な環境問題になっています。自然に対しての「不友愛」の行為は悪い結果を生み出します。政府は今、「人間と自然との調和的共存」を提唱していますが、これは「自然に対する友愛」と同じ考えだと思います。

友愛というのは、人と人だけでなく、国と国、人と自然などの間にもあります。友愛は私たちが備えるべき重要な資質の一つです。友愛を通じて、もっと良い世界を作ることができます。新世代の私たちも、友愛活動に貢献をすることが大切だと思います。

万物を愛する

楊 満（3年）

中国国際青年中心に於ける友愛協会の鳩山由紀夫先生のご講演を聞かせていただいて冥利に尽きます。

鳩山先生はご講義で「兼愛、それは自分と同じほどに相手を愛することです」とおっしゃっていました。これを敷衍して私は「友愛、自分と同じほどに万物を愛すること」と考えました。

友愛協会のパンフレットを見て、遼寧省錦州市での植林活動を見つけました。友愛協会に、私の故郷・遼寧省の環境保護にお力添えしていただき本当にありがたく存じました。

私が幼少のころ、遼寧省の実家の付近には多くの木がありました。五歳違いの兄は私と私の友達にかくれんぼを教えてくださいました。私が鬼になった時、木に向かって、「1、2、3……」と数を数えていた時の木の暖かさを感じました。今、その林は切り払われ、ビルが建っています。町の偉い人は「ビルは経済発展の象徴だ」と胸を張っていますが、私たちには思い出の林がなくなったことの悲しみし

かありません。それは私たちが間違っていたのでしょうか。人間の都合のために林の生存を否定する、そこには友愛が足りなかったのです。

人間、動物、植物は一緒にこの地球に住んでいます。個人の運命は周りの全ての生き物の運命と緊密な関係があります。だから、友愛の精神で全ての生き物たちとつきあうなら、私たちも万物からの友愛を得られると思います。

今日、私たちの日本語の恩師・菊地先生はクリスマスパーティーを開いて、学生たちを誘ってくれました。理工大学以外の学校からもパーティーに参加する人がいて、和風の鍋と中華料理とフランスのケーキを食べました。違う言葉をお話しながらも、感情を共有して楽しみました。パーティーの最後に菊地先生はイタリア語で歌を歌いました。歌詞の意味がわかりませんが、菊地先生目と声から歌の感情を深く感じとれました。国籍と宗教を問わず、みんなはお互いに気持ちを理解し、お互いを尊重することは「友愛」と、鳩山先生のおっしゃるのはこれかなと思いました。

植林活動は自然を守ること、自然への愛の表現です。国籍・宗教を問わず、一緒に歌った風景は相互理解のシルエットだったのではないのでしょうか。これは私が感じとった「友愛」です。百年後、一つ一つの苗木は森になります。友愛の精神も伝承し続けられると信じています。



友愛と私

呉 清儀（2年）

鳩山由紀夫先生によると、友愛とは親子・恋人同士の愛とは別のもので、見も知らない者同士の愛のことである。それは両者の信頼関係によって成り立つ愛で、言い換えるなら「自立と共生」の精神に則って「お互いの人格を尊重すること」だ。思えば私も今日に至るまで、ささやかながら鳩山先生の説く友愛を感じ、実践してきた。

子供の頃病弱だった私は、ある日、帰宅途中に、突然目眩がして倒れてしまった。幸い、通りすがりのお兄さんがバイクで私を母のところに連れて行ってくれたおかげで、体はすぐに回復した。お兄さんに感謝したくて八方手を尽くしたけれど、彼のことは全くわからなかった。この見知らぬ人助けてもらった経験は、私が体験した初めての友愛で、今でも私の心に残る大切な思い出だ。そして、自立した成人として、今度は自分ができることを通じて社会に貢献していきたいと思った原点となった。

鳩山先生によると、人と人との関係だけでなく、「自然との共生」も友愛で、友愛協会は植林などの環境保護活動を行っている。私も故郷武漢で、十年前から湖を保護する愛我百湖というボランティア活動を続けている。武漢は百湖の市と言われているものの、実際には数多くの湖が消失してしまった。残った湖は汚染され、異臭を放った。そこで、愛我百湖は昔の湖を取り戻すために、湖の周辺を隈なく歩き回り、湖に注がれる違法に設置された汚水の排出口を探し出してきた。また、地元の手新聞社の長江日報や武漢市水務局と協力したり、大学生ボランティアの参加を募ったりしたりしながら、愛我百湖は、排水問題だけではなく、湖の埋め立て問題や、汚染された湖の浄化処理、湖保護の宣伝活動など、様々な活動に取り組ん

でいる。私は、この十年間、我愛百湖の様々な活動に参加してきた。武漢にいる時は必ず毎日のパトロールと世界水の日などの宣伝活動に参加するし、今、北京にいても愛我百湖の活動の一環である湖保護の大切さを訴える作文コンクールに協力するなど、人間と自然の共生のために微力ながらも日々取り組んでいる。

今の私の友愛に対する考えはまだ深くない。私が身近に感じる友愛は、人と人、人と自然の関係を通じた友愛である。しかし、鳩山先生によると、組織と組織、国と国の友愛もある。今後は、鳩山先生が言うもっと大きな友愛を求めて、友愛に対する理解を深めながら日々努力していきたいと思う。

友 愛

孫 鳴鶴（2年）

2017年11月15日、私たちは友愛協会の撮影コンクールの授賞式に参加した。そして、鳩山由紀夫先生の講演を拝聴し、友愛協会という組織のいろいろな活動や主張などをより深く理解した。

まず、鳩山先生は友愛の定義と由来、ご自身の友愛に対する見解や友愛協会という組織が提唱している理念を説明した。鳩山先生にとって友愛とは、親子・恋人同士の愛とは別のものであり、見も知らない者同士の愛である。また、鳩山先生は、植林活動を始め、友愛協会の現状や主張を説明した。植林活動を通じて、人と人との間の友愛だけではなく、人間と自然の共生をも求めている友愛協会の活動は、私たちに友愛という概念を新たな観点から改めて認識させてくれた。さらに、鳩山先生によると、友愛は人と人との関係だけでなく、組織と組織、国と国の友愛もあるのである。鳩山先生は、「友

愛とは自立と共生である」とおっしゃった。自己の尊厳を高め、他者の尊厳を尊重するのが友愛である。そして、先生は東アジア共同体という構想を通じて、中国と日本がお互いを尊重し、理解することを望まれた。最後に、民間外交を活動の柱として活躍している友愛協会のことを改めて説明して下さった。

今回、私は、鳩山先生の講演を通して、友愛という言葉の意味をより深く考えた。私が認識を新たにしたのは、友愛とは人間関係を表す言葉であるよりもむしろ、集団と集団の関係を表す言葉である、という先生の考えである。つまり、自然界という集団と人間という集団の間には友愛が必要であり、中国という集団と日本という集団の間には友愛が必要であるという点だ。実は、我が国もそのような友愛の考えに基づいた関係を望んでいるのである。習主席は、「生命共同体を目指す」ことや、一帯一路構想などを提唱している。私も、このような構想を成功させるために、人々の努力が不可欠だと思っている。まず、私が自分自身から、自然や世界を対象にし、できるだけ尊重や理解を示すようにすれば、ごく小さいことでも、やがては大きな効果を生み出す方向に向かっていくと思う。例えば、日常生活において、環境に優しく行動するのは友愛の表現の一つであろう。また、国家間においては、外交面で、中日両国が歴史を正視し、未来を目指すという態度を持って友愛を体現すれば、両国の関係が更に深まり、互いに理解を深めることができるのではないかと思う。

今、世界情勢は日々刻々と変化している。我が国は「強い国」を目指すために、他国との関係を重視しなければならない。言うまでもなく、日本との関係も大事だと思う。中日両国の政府が相互尊重・相互理解を求め、共に歩いていくことは、鳩山先生を始めとする友愛協会の方々だけでなく、世界中の人々が求める理想の未来であろう。

草の根交流と友愛

王 竹君（2年）

去年、日本語を専攻にしたばかりのころだった。ネットで偶然、日本人のMさんと交流する機会を得た。自分を学んだ知識で日本人の友達を作ろうと思って、ワクワクしながら話しかけた。同い年の女の子なので、共感できる話題が山ほどあった。インターネットのおかげで外国人と交流できるというのは本当にいいなあと思っていた。しかし、ある日、「明治神宮の液体事件 中国人の女2人に逮捕状」というニュースが報道された。ネット上で日本側のコメントを見て、この事件はやはり中国人観光客の印象にすごく悪い影響をもたらしたということが分かった。せっかくできた日本人の友達なのに、これからMさんに嫌われるかもしれないと心配で仕方がなかった。しかし、Mさんは最初に怖いとிட்டのだが、次にこのようにコメントした。

「ニュースを見て思ったことは日本人はまた過激な悪口を言うということだ。確かに観光客がしたことは悪いことだが、過剰に言いすぎるのもよくない。中国人はいい人が多い気がする。すくなくとも私はそう思う。私もこのアプリで中国人と交流し始める前は、中国人に対していい印象は正直なかった。」

私はすごく感動した。Mさんは自ら中国人と交流したことがあるからこそ、客観的な評価をしたのだ。つまり、単にメディアを通じて世界を知ろうとするより、自分自身の経験に基づいて下した判断の方が偏見がすくないのかもしれない。その時、私は日本語学科の学生として、初めて自分の使命を悟った。たったひとりの日本人でも、私と交流した結果、中国に対する誤解や偏見などを持たなくなったのなら、日本語学科の学生としての私の今までの努力のかいが

あったということであろう。そしてそれは、私が日中両国の友好関係を築くために第一歩を踏み出したということではないだろうか。

先月、中日青年交流中心で鳩山由紀夫先生と交流する機会を得た。先生の講演を聞いて、日本側からの「友愛」という心を実感した。そもそも日本は中国と長い間交流してきた隣国だから、お互いに理解しながら共に人類社会の発展に力を注ぐべきだ。また、世界は今、環境汚染や資源の不足など様々な問題に直面している。人と人、組織と組織、国と国の間の協力と相互扶助は不可欠なものだ。しっかりと交流した上で、自立と共生の調和的共存ができれば、必ずよりよい素晴らしい未来を迎えることができるだろう。

中国と日本の関係

李 昊 谦（2年）

中国と日本の問題は、歴史上の問題ばかりでなく、人間の問題だ。というのは、両国の人々はまったく相手の国の文化と人の言動と考え方を誤解してしまっている。コミュニケーション不足のゆえ、誤解が深くなってきている。残念ながら、両国関係は19世紀後半からずっと緊張しつづけている。

「どのように相手と共生すればいいかな」、「相手の国に対してどんな気持ちを持ったほうがいいかな」とよく考える。歴史を見ずに付き合うのはとても無理だが、悪いことをずっと心底に置いて恨みつつ、つきあうのも気疲れして大変だ。

中国人にとって、日本人と一緒に仕事や生活などをするとき、「どんな姿勢でのぞめばいいか」を私は小学校からずっと考えていたが、なかなか理解できなかった。でも、大学に入り、日本語専攻学生と

して、日本人の先生の授業を受けてから、どのようにすれば日本人と楽しくつきあえるのかが次第に分かってきた。

初めて先生とあったとき、私たちは先生からの「じゃ、また来週。」のように基本的なあいさつさえ聞き取れず、先生に「すみません、先生、もう一度お願いします。」と言ったこともある。まして日常、ごあいさつをする時、ぜんぜん礼儀ただしくなく、いろいろとミスをしてしまった。「失礼します」と「ごめんください」などの簡単なあいさつを間違えたこともある。しかし、先生がおこったことは一度もなかった。いつまでも、私たちを慈愛の目で、許してくれてきたことに本当に感謝している。質問するとき、上下関係をわきまえない言葉を使って、とても失礼なことを言ったとき、それでも先生は依然として、親切に教えてくれた。よく私たちの立場に立って、私たちのために考えてくれた。先生は実によく耐えてくれた。

ある先生と一緒に部屋に入る時、先生は私たちを先に入らせてくれた。中国人はこれが普通の行動だと思っているかもしれないが、日本人にとって目上の方が先に入るのが当たり前のことだった。

日本の国の習俗にこだわらず、私たちと一緒に楽しく遊べるように、先生は私たちの国の文化を理解してくれた。いつもニコニコして、友達のように一緒に笑いながら、先生はいろいろと教えてくれた。

中国人であれ日本人であれ、私たちは等しく仏の弟子であることを悟れば、楽しく交流することができる。それから、お互いの良さをよく理解して、身につけて、良いところを取り入れるのは異文化コミュニケーションする一番の目的なのではないだろうか。

確かに両国には、歴史上未解決の問題が多いが、私たちの先生のような素晴らしい日本人が大勢いる。先生のような日本人は中国人と同じに歴史を認めて、相手の国を尊敬して、もっと平和的で仲良

い未来をならせるように、頑固を捨てて、いろいろと我慢して、いろいろと工夫している。直接先生にお礼を言ったことが一度もないが、心底ずっと先生を尊敬して、感謝している。

実は、国の間の問題は人間同士の問題だと思っている。将来、多くの人々が、私たちの先生のように、中国と日本のかけはしになれば、両国関係はきっとよくなると信じている。

「友愛講演会」感想文

李明悦（2年）

大学に入って、先生は毎時間、「友愛」という新聞を配布していた。それから初めて日本友愛協会と日本友愛協会が行った活動を知った。新聞によると、日本友愛協会はずっと講演会や撮影コンクールや植林地視察などの活動を通して友愛思想を広めているそうだ。今度の友愛講演会に参加できたし、鳩山先生ご夫妻と川手正一郎先生ともお会いできて光栄と思う。鳩山由紀夫先生の講演を聞いて、友愛についての理解はもっと深くなったと思う。

講演会の初めに鳩山先生は奥さんへの深い愛を表した。まず家庭に愛を注ぐ一方、友愛世界を追い求める人々を集結して世界に友愛思想を広めれば、広く理解を得ることができると思う。一つ一つの個人の努力がたまって、大きな変化が起きると言われる。

鳩山先生は自立と共生という友愛の主題をしめした。個人や国が自立と共生をはたした後、友愛社会を実現できる。国の共生は共同することによってできると思う。鳩山先生も東アジアを共同体にしたいと言っていた。私もそう思う。文化的・法律的に見ると、東アジアの各国はたくさんの共通点があると言われる。一方では、経済

や政治や軍事などにおいて、たくさんの違いもあると言われる。それにもかかわらず、共同していくことの可能性もあると思う。「一带一路」イニシアティブの提唱は良い例だと思う。「一带一路」の沿線の各国もたくさんの違いがある。中国の指導により、利益共同体と責任共同体と運命共同体を打ち立てる。グローバル化のもと、一つの国が独立に世界のうねりの中で生存することは無理だ。共同体を構築することは世界が発展していく方向と一致すると思う。最近、友達と日本アニメ産業についての発表を準備した。資料によると、今多くの中国のアニメ企業は日本のアニメ企業と共同制作しているようだ。しかし、共同制作の過程で、いろいろな問題があきらかになった。例えば、日本の伝統的な制作スタイルは中国の効率重視の制作スタイルと違いがあるようだ。もし、日本と中国はアニメ産業の領域に共同制作メカニズムを立てて、中国と日本の産業はそのメカニズムによって共同制作すると、よい結果が出ると思う。アニメ産業だけでなく、ほかもそうだと思う。

日本語を勉強している私たちは、未来の中国と日本の交流のかけ橋だと思う。勉強した知識を応用して、友愛社会を実現することに貢献していくことは私たちの責任だと思う。

鳩山由紀夫先生の講演の感想文

王 丹通（2年）

先月、私はクラスメートと一緒に日本の元首相の鳩山由紀夫先生の講演会に参加しました。これは初めて日本の元指導者の講演をいただくので、とても楽しかったです。その前に、鳩山先生の講演の内容を深く理解するために、インターネットをもって、鳩山由紀夫

先生についての資料をたくさん調べました。インターネットによると、鳩山由紀夫先生は平和を愛する方だそうです。彼はずっと平和のために努力しているので、中国や韓国などの近隣諸国に認可してもらっていました。

鳩山先生の講演の内容の中で二つ部分に深く印象を残しました。まず、鳩山先生は「一带一路」に賛同していることです。鳩山先生は5月に開催された「一带一路」のフォーラムに非常に賛同を表しました。日本は今、「一带一路」に関心を示していません。しかし、中国が「一带一路」構想を通じて、ほかの近隣諸国と協力的にならうので、日本もこれに協力すべき出だと思っております。中国の発展に伴って、「一带一路」に参加する国が次第に増えています。ただアジア諸国だけではなく、ヨーロッパ諸国も参加しています。国々は「一带一路」の中で経済を発展させることができます。今、日本は高齢化のような社会問題がたくさんある。「一带一路」に参加すれば、経済や産業が発展していろいろな社会の矛盾を緩和できるかもしれません。日本の得意分野の一つに環境が挙げられますが、世界環境が悪くなっていく中で、その浄化のために日中が協力をしていくことは重要です。そして、日本のロボットや車産業が得意名です。このような得意な分野における協力が望まれます。

もう一つの部分は中日関係です。歴史的に見ると、中日関係は非常に緊密です。隋唐の時期だったころ、たくさんの阿倍仲麻呂のような遣唐使は日本から長安へ留学に行って、中国の鑑真は困難を克服して日本へ渡って先進的な知識を教えてあげました。しかし、近代になると、文化の違いや経済利益などの原因のために矛盾が出ていました。今さへまで、両国の間には誤解があります。鳩山由紀夫先生は私たちに中国と日本とのかけ橋になってほしいと希望しています。日本語学科の大学生として、中日友好を促進する義務があると思っています。



左のu(ユー)と右のi(アイ)でユーアイ(友愛)です。これは英語のユー(You あなた)と(I 私)に通じ、全体の形は、We(私たち)のwでありWorld(世界)のwです。

あなたと私、私たちが友愛の世界を目指しましょう！

一般財団法人 友 愛

<http://yuai-love.com>